

令和元年度第1回阿南町総合教育会議議事録

日 時：令和元年8月30日（金） 13時30分から15時01分

場 所：阿南町役場委員会室（3F）

令和元年度第1回阿南町総合教育会議次第

- 1 開 会 総務課長
- 2 あいさつ
（1）副町長
（2）教育長
- 3 意見交換
（1）中学校統合問題の考え方と今後の進め方について
（2）その他
- 4 閉 会 総務課長

《出席構成員》

副町長	松 澤 享
教育長	南 嶋 俊 三
教育長職務代理	林 一 仁
教育委員	猪 切 信 子
教育委員	大 倉 康 夫
教育委員	林 一 仁

《事務局》

総務課長	勝 又 司
総務課行政係長	南 島 剛 志

《出席職員》

教育委員会事務局長	岡 田 六 久
〃 子ども教育係長	村 山 俊 行
〃 社会教育係長	大 平 正 章

- 1 開 会 ＜12時58分＞

○司会 松澤総務課長

こんにちは、定刻前ではありますが皆様お揃いですので、ただ今から令和元年度第1回阿南町総合教育会議を開催いたします。まず副町長さんのあいさつをお願いします。

2 あいさつ

○ 松澤副町長

改めましてこんにちは、たいへんお忙しい中ご出席賜りましてありがとうございます。本来、町長が出席すべきところですが、町長は今日出県しておりまして、夕方出ないと帰ってこれないという事がありますので、私代理でございますけれども、出席をさせていただきます。

今日の次第を見ていただきますと、意見交換の中ではやはり一番の課題であります、統合問題の考え方と今後の進め方となっております。私が富草寮の納涼祭に行ったときに、学校の先生からも「統合検討については滞っちゃっておるがどうしちゃったの。」というようなことも直接聞かれています。それほど難しい問題と認識はしておりますけれども、やはり町長も申しておりますけれども、結論を急ぐわけではないんですが、ある程度の方向性を出す必要が出て来ると、そのあり方検討委員会の中で一定の方向は出されておりますけれども、パブリックコメントの内容を見てみますと、ほとんどが反対意見の意見としか出ていないということで、そのようなことをどう進めて行くかということがまず大事なと思います。他の地区の統合したような所の地区の委員会の様子をネットで調べてみますと、やはり子どもたちのために小規模校でいいのか、小規模というか複式学級でいいのか、それとも切磋琢磨してやって行く方がいいのかというのが、やっぱりどこも同じ問題を抱えておるんだなあと感じますけれども、だいたい子どもの教育を考えれば、統合やむなしということで進んでおくのが状況かなと、ネットで調べる限りではそう感じた訳でございます。今日はその方向性を見出すためにも、今後の考え方について様々な角度からご意見を賜り、考えて行きたいと思っておりますので、大変お忙しい所ではございますけれども、意見をしっかりと出していただきまして、会議が終わりますようよろしくお願いしたいと思います。今日は本当に御苦勞様でございます。

○ 司会 勝又総務課長

続きまして教育長さんをお願いします。

○ 南嶋教育長

それこそご苦勞様でございます。今の話の様に令和元年度の最初の1回目の総合教育会議で、大変お忙しい所お集まりいただきまして、ありがとうございます。

まあ、くどいようになりますが総合教育会議は、言うまでもなく町長さん、副町長さんをはじめ町長部局、それから教育委員会部局がそれぞれ子どもの教育に関しまして、いろいろな方面から、今の話の様に教育環境を整えていくというようなので、平成27年からこういうような総合教育会議が開催されるようになりました。

振り返ってみますと、私がこの職について7年になる訳でございます。まあ率直な所7年前は、言葉はあまりよくありませんが、教育に関する、また教育委員会に対する何か偏見的なものがあつたのかなあと感じますし、実際7年前ここに入った時には、「なんだ教育に関して全然関心がないし、予算的な面も少ないなあ。」という感じを受けたわけでございます。うる覚えであります、町の予算の7%くらいしか教育委員会の予算が無くて、それから今段々と増えて、給食費半額補助とかそういうのも入れまして、今年度昨年度あたりは、ICTから冷房から入れれば、二桁くらい超えているんじゃないかと思えます。そういうのを見ても、肌で感じるところもありますが非常に近年教育に対する考え方と言いますか、非常に重きを置いていただきまして、ハード面、ソフト面にもかなり力を入れていただいているかなあと、そんなことを思うところでございまして、いずれにしても、私たち大人が、そしてまた地方教育行政が、子ども達を育てる意味で何とか力を注いで、子ども達の将来の、また阿南町の将来の土台を築いていく、そういう事が我々に与えられた指名かなあと感じております。ぜひご協力をいただき、お願いをしたいと思います。

います。先ほど副町長から話があったように、今日の会議は教育環境のあり方検討委員会のパブリックコメントについての話をするわけでありますけれども、これは、町長は早くという言葉がありますが、早く進めれば良いという問題ではなくて、時間を置くところに意義があって、大切なことだと私は考えていますので、そういうつもりで私はやっています。やるべき時がきましたら、私もこれでやって行きたいと思っておりますので、ぜひこれから持つて行く上でのご意見を、この場で検討していただければありがたいかなと、そんなことをお願いしましてあいさつに代えます。ありがとうございました。

○司会 勝又総務課長

申し遅れましたが、司会という事でやらさせていただきます。総務課長の勝又です。よろしくお願いします。これからにつきましては着座のままで進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。続いて意見交換という事で、(1) 中学校統合問題の考え方と今後の進め方についてということで、教育委員会事務局の方からよろしくお願いいたします。

○岡田事務局長

ご苦勞様でございます。今日の意見交換につきましては、今説明がありましたように1点をお願いしたいということで、資料につきましてはこれから内容等簡単に説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

＜教育環境のあり方検討委員会の答申についてのパブリックコメントの概要についての資料に基づいて説明＞

○司会 勝又総務課長

今、教育委員会事務局長の方から中学校統合問題の考え方について、話がありましたが、今後どう進めるべきかという事でテーマでございますが、ご意見をいただきたいと思いますが。 どうでしょう。

＜意見＞

- 2点お願いします。1点目ですが、自分は教育環境のあり方検討委員会の委員だったので、その辺をお話したいんですけど、平成29年の8月23日に第1回の委員会がありました。その時はたまたま保護者会長だったり、PTAの会長だったり、あと学校の校長先生から、かつて教員をやっていた方たちや教育委員の17名が選出されて、参加した訳ですけども、最初は自分が代表でいいのかということで、たまたまPTA会長だったからとか保護者会長だったからとかいう雰囲気ですスタートしました。なので、決して手を上げて委員になった訳ではなくて、自分の考えがまとまっている訳でもなくて、しかも、その時までは触れてはいけない話題に、公に話をしなければいけない状況の中で、たぶん皆さんすごく緊張されてその会に参加されていたんだと思います。新しく出会った人たちもいるし、「この人達何を考えているのかな。」と探り合いをする感じで、しかも自分の意見がまとまっていない状況で、最初の数回の時には意見も出し辛かったし、何を話しているかわからない状況でスタートしたのが思い出されます。ただだんだん話していくうちに、グループ討議を進めるとか、あと自分がホントに代表でいいのかという時に、次回までに保護者会とかPTAのところまで持ち帰って、皆様の意見をいろいろな形で集約をして次回に持ってきますという事で、次の会に進めて行ってもらっていたので、後半ではかなりグループ討議の中で、きちんと真剣に話し合ってきた1年半、9回行われたわけですけども、本当にみんないい加減な方たちはいなくて、本当に子ども達にとってどういう形がいいのかという結論を出したいがために、真剣に話し合いをしました。その1年半があって、12月の終わりに町長に答申を出した訳ですけども、その検討委員会のあり

方についてその意見が尊重されないこと自体が、おかしいというかさっき校長先生たちから「どうなっているのか。」とくお聞きされたという話なんですけれど、町長に願ひする段階、何がいいかという、この地域にとってと言うのは勿論だけど、やっぱり子ども達にとって何が必要だよねと言う意見をもってその会を閉じた経過があるので、このパブリックコメントを読むと、あり方検討委員会がいかにも形式ばってたとか、いい加減だったと読み取れるところがあるとすごい悲しいことがあります。

それから2点目ですけれど、答申についての説明会を地区ごとに行われたときに、特に新野の中では声が大きな方たちがガンガン出された。その会に出席されていた方の意見として反対意見が出し辛かった。とても勢いに飲まれちゃって、ほんとに自分の意見を言えないような状況だったというのをお聞きした時に、パブリックコメント自体が、そういう説明会の中の影響で書かれた方が多いんじゃないかなという印象があるので、それを真摯に受け止めなければいけないとは思いますが、読まさせてもらおうと子ども達にいいかどうかという事がものすごくなくて、地域の事とか、あり方検討委員会のやり方とか、統合とか、その言葉だけで進んでいるところがあって、現実問題あと6年後に二中が残ったら、全校生徒8人の中で中学を運営しなければいけない。そうなったら先生も取れないし、当然加配の先生たちもお願いしなければ学校が成り立たない状況まで来ているので、これは早急に進めるべきではないかなと言うように思います。

○司会 勝又総務課長

はいわかりました。他にはいかがでしょうか。

- パブリックコメントの意見はエゴのぶつかり合いとを感じる。地域エゴ。それは新野の人たちに取ってみたら「統合ありき」のような姿勢で臨んでくる大下条・富草が地域エゴだと思うでしょうし。私たちがこういう意見を見ると、「何で人口対策なら、地域の活性化を町でしっかりやらないじゃないか」と言う割には、新野の事は新野で決めたいと言っている。それは矛盾しているし、町の活性化や人口を増やす対策を町でやってくれと言うんだったら、その対策に対する結果を伴って、判断するのは町であるべきであって新野ではない。言っていることが矛盾している気がします。ですからほんとにエゴのぶつかり合いで、おそらく前にこういう話が起きた時にも、最終的にまとまりがつかないのもそのあたりが問題じゃないかと思うんですけれど、結局何も変わってないです。

子どもを第一に考えましょうというのを、スローガンにするのが何がいけないのか、そっちの方がいけない。スチューデントファーストがあって進めるべき話だと思うので、大々的なスローガンでいいと思うんです。その結果統合ではなくて、小中一貫校がいいとかそういう方向が出るのだったらそれはそれでいいと思いますし、常に考えるのは、新野が衰退するとかしないとかの前に、新野で育つ子どもたちにどういう教育環境を与えたいかということが、一番先にあるべきだと思います。それと最終的でもないが、やっぱりお金の問題は、小さな問題ではないと思います。私は公務員の世界を全く知らない民間の出ですので、コストというのは非常に大きなウェイトを、決めるにしても、作るにしても、何するにしても、大きなウェイトも持っています。時にはそれが最優先される場合もあります。教育というのにそれが最優先されるという事を、いいと思っている訳ではないですけれど、やはりトータルの決められた町のお金の枠の中で、最善を尽くすときに、それでは教育というものにどうお金をかけたらいいいのか、スクールバスを出そうと思えば金がかかるかもしれません。だけでも先生が加配でなくて町の費用で何人も集めなければならなくなれば、スクールバス1台を1年で替えます。出て来て非常に気になったのが、「新野の住民による話し合いで方向を出したい。」とか出てくるんです。新野を考える会って新野を代表する組織かと聞きたくなる。最終的には論点がかみ合わないまま。要するにあり方検討委員会としての方向を出したのに対して、主に新野の人の意見で言えば、それについては反対的な立場が圧倒的に多いように聞こえる訳です。これを見ると、でも現実はどうじゃないとも思うんです。先ほど猪切委員の方から話がありましたけれ

ども、「声のでかい人の意見が通る」そういう雰囲気がきつとあったんだろうなと、聞いててそういう雰囲気があるような気がしました。

- 実際に阿南町の人口が今 4,500 ですよ。長野県で一番大きな町箕輪町が 25,000 のところが、中学が一つなんです。小学校が 5 つあって、中学が 1 つで、5 月に自然の家に箕輪中の 1 年生が来たんですが、7 クラス 250 人という 1 学年の生徒がいる姿を見たときに、じゃあ本当に 4 人とか 5 人とか 1 人しかいない新野を見たときに、本当にこれでいいのかなと、町長が成人式の時に「たくさんの人と出会え」とおっしゃったんですけど、たくさんの人と出会う機会そのものがない状況が来ている。新野だ大下条だと言っている時代は終わったと思うんです。もう新野の小中一貫校と言っていることではなくて、阿南町が一つにならなきゃいけない時代はとっくに来ている話であって、なぜ新野だけで固まらなきゃいけないのかと、新野の極一部の人たちだと思うんですけど、その意見の趣旨が分からなくて、しかもこれだけ道が整備されて、大下条まで来たって 20 分もかからないような交通事情になってる中で、ものすごく敵対するエゴというか、敵対する時代ではなくて、町が一つにならなきゃいけないのは当たり前だと思います。

- 通学に時間がかかるというなら、御供から通っている、川田から通っている子は何なんだ。

- 歩いて行ける距離という言葉があったんですけど、それのはずなのに新野の親たちは乗せて来るんですよ車で。1 キロ無い所を。そういう現状でありながら、新野だ新野だという。ほんとに子ども達のために親は、正しい姿で子どもに関わっているかと言えば、毎年私は校長先生にお願いするくらい、「先生歩かせて登校させてください。」というような現状です。大下条の子ども達は歩いていらっしゃるので、その辺の親の考え方を外へ向けてかなきゃいけないのかなと、実際高校へ行ったときに、うちの娘の同級生も夏休みまで持たなくて、高校 1 年の途中で退学しました。やはり人とどう関わっていいかわからなくて、15 歳までに固定された人間関係の中で育った人たちが、16 になった時に自分を出せるか、相手を受け入れられるかと言ったときに、それはとても無理な話で、実際に夏に新盆の機会ですいろいろな人と出会う機会があった中で、大学生になった女の子と話した時に、「飯田の高校へ行ったときに 3 年間どうしていいかわからなかった。何を話していいか、何を受け入れていいかわからなくて高校の 3 年間辛くて、だけど大学へ行って自分をそのまま出せるので、今ホントに楽しくて楽だ。」と言うのを聞いた時に、ほんとにこれだなと実感をした。

- 司会 勝又総務課長

ありがとうございました。

- 話を聞くとみんなこういう意見だでな。だいたいこういう意見だ。ちょっとしゃべらせてもらっていいかな。

教育環境のあり方検討委員会で、一つの方向を出していただきました。これは実際に 4 つのと 2 つの学校があって、保育園があって、これから先少子化で言った場合に、阿南町はどうしたらいいか、どうやって行ったらいいかという事で、この委員会を作って検討をしてもらった。そういう検討をしてもらった中で、今猪切委員の方から言ったのように、9 回の委員会の中では真剣に話合われて意見をだしながら、一つの方向性を出してもらった。それで地域を回って説明をしたんだが、それでパブリックコメントが出て来た。パブリックコメントが出て来ても、実際に答申の内容が町民・住民に行っているかというところかと言うと、この答申は、保育園・小学校はそのまま行きますよ、現状のまま頑張ってくださいと言うことで、中学校は近々に統合しましょう。というような話なんだけ

ど、小学校から統合とか何とかというものが出来て来ているので、そういうところがかみ合っていないなあという事が言えますし、そこら辺も今後の地域の説明にやって行かなきゃいけないなあというのが一つ。

もう一つは、委員会の中でも出たが、私もそう思うが、今猪切委員の方から話があったように、将来社会に出たときに、大きくなった時に、人間関係を構築する上での術・技術、そういうようなものがどこで養われるのというのと、養う場所がない 3 人ばかりのところだったら、要するに中学期・青年期その時期というものは、そこら辺が非常に重要であって、将来の社会へ出た時企業へ入った時の関係構築に非常に役立つ。そこら辺のところを重点的に今後説明していかなくちゃいけないかな、ご理解を頂かなきゃいけないかな、というところを重点的に考えておって、そこら辺をご理解いただければ、中学校の方は何とか、「ある程度的人数が居なきゃダメなんだなあ。」という意識を持ってもらうような方向に行きたいなあ。という風に私は思っています。

- 多分、意見を出している人たちが、自分の時代には人が十分いたと思うんです。現実問題でこれしか同級生がいない。例えば小学校 1 年生 1 人だけなので、戦う相手がいない。仲良くなる相手もないような状況で、6 年後はこの人数だけが二中なんです。そういうことが話をしている人たちが、イメージをされていないと思う。地域のためとか、お祭りのためとか言うんですが、普通に考えたら無理だよ。夏に先ほど言っているんな方たちと話した時に、ほんとに子どもがこれしかないんだよと言ったら、皆さん言ったのが「子ども達がかawaiiそう。」という事だ。ほんとに子ども達にとって、それは無理でしょうと、客観的に考えても無理だということが、イメージ化されれば意見が変わって来るのかなと。例えば、同級生が嫌いなタイプの時に、学校が楽しくて明日も学校に行く気になるかといったら、まずここで学校の存続よりも、自分の明日が見えない状況だってある日来る訳じゃないか。明日も頑張って学校へ行こうという人ばかりの状況だったらいけど、そんなことはありえない話で、先ほど教育長さんが言ったように、人間関係を切磋琢磨するには、それなりの人数が居なくちゃいけないという現実を理解してもらうしかない。
- A あたりも意見を聞くと、統合問題じゃなくて新野の人口減少が気になって、昔の活気を取り戻すの、取り戻さないのというのを念頭に話をしている気がしてしかたない。それこそここには、スローガンとしてスチューデントファーストを持ってきて考えるべきなのに、「新野が寂れる。」「伝統芸能がなくなる。」 伝統芸能が無くなるのは寂しいことだけど、別に中学を統合したって伝統芸のは無くならない。
- 「子ども達が守るべきだ。」と書いてあるんですけど、祭りを守るのは地域が守らなくちゃいけないのであって、実際にお祭りに行ってみると地域の人たちがいない。カメラを抱えた旅行客がいて、雪まつりとか関わっている人の親はちょっとはいるが、ほんとに地域の人たちが雪まつりを思っているかと言うと、そういうことが見えないし、盆踊りだって今年は雨が多かったかもしれないが、最終の能登の時に、お嫁さんに来た人とか元々新野でなかった人がどれだけ踊っているかといったときに、地域の方は、母ちゃんたちはいないよねと言う現状の中で、子供たちに守れ守れというのは無理な話しであって、それに関しては地域が守るべきだと思う。
- 私が役場へ入った頃は、151 号が全線つながれば、一中・二中は統合するんだよという話しは聞いていた。勝野正光さんの時代で、小林健三さん、佐々木暢生町長そして今の町長で来て、いつの間にかだんだん今のような話になって、統合どころかそれぞれ地域を守るんだという話しになっている。でも俺からしてみると、一中は富草中学、大下条中学、もちろん和合も、そういう人たちが統合になって一中をやったのだから、「何で新野だけが一緒にならんのか。」という気持ちが正直あります。近くなつたにも関わらず。それとも

う一つは、答申が出たところにそれをもって町はどうするかというところに行っていると思うんですが、答申に対してどうするかというのが、今後の課題ではないかと思ってはいるんですけど、廃校にする訳ではなくて、二中を休校にして、とりあえず生徒がこっちへ来て、また人数が増えたところで復活してやったらどうか。現実的に難しいところは出てくると思いますが、感情を和らげるような方策を考える中で、廃校にするわけじゃ無いんだから、休校にして生徒が増えるまでこちらで統合したらどうでしょうとか、いっしょにやったらどうでしょうとかいう考えも、いいんじゃないかなあと個人的には思っていますけれど、今日討論しても、たぶん方向は見えていても結論は出ないので。

- 流れ的には皆さんがおっしゃったのと同じで、総務課長がおっしゃった個人的なという事だと思うんですけど、統合問題って教育委員会の責任でやるべきことなんでしょうけど、答申が出た町としてはどう考えられるかというのが、「今後全て教育委員会にお任せ」ということなのか、コメント見てもらうとほとんど地域がらみの事なので、これは教育委員会だけの事なのかなということ。はっきり言えば統合はここに出てきた意見を一つ一つ解決していけばできるだけのことであって、それは、地域的なことは教育委員会で行うべきことではないので、その辺はどうなんですか。
- 私は、中川村の今ではなくてかつての村長さんが、村長の一言で中学は一つにするというのを聞いた時に、それだなと思ったので、鶴の一声でできるのかなと思った。
- なかなか難しい所ではありますが、今日の委員会の意見としては、統合すべき方向だというのがほとんどだと思いますが、私も15・16年前の検討委員会に、ちょうど一中のPTA会長であって、なれという事になって検討した結果があるんだけど、結局それ以降も新野へ行ったらつるし上げられちゃって、とても我々の意見を言う事は出来ずに、消えて来たというか、誰も結論を出せずにきたことで、それ以来15・16年経って、やっと今検討会で統合について前向きな意見を出されたということでもありますけれど、現実このままおるだけでも、来年でもどんどん人口が減ってくる、生徒数も減ってくる。とれと学習環境も変わってきている。部活動やっても新野地区では、個人種目のようなバトミントンとか、今バトミントンも南信大会などでは結構いい成績を収められているんだけど、それでも団体競技のクラブ活動もできなくなってきたことを見れば、やはり子ども達に一番大切な集団生活で学ぶべきこと、それから切磋琢磨してやって行くこと、それからいろんな意見を見聞きすることを考えれば、統合が必要ではないかという私の個人的な意見は変わりはないです。ただ、答申が出たんだから町が、ということなんですけれども、これにつきましては町長の本心は統合せざるを得ないという本心であると思います。旧議員の方からも、もうここまで答申が出たら町長があと判断して、粛々と進めればいいんじゃないのという意見も、私の方へ直接言って来られる住民の方もおります。ですので、町長としてはもう少し地区の、これだけ見れば新野地区の反対意見ばかりが出てきちゃっとなる。ただし役場職員の中でも新野地区に住む職員の中ではもう、こんなところでは子どもの教育は任せられないから、もう出て行きたいと言っていることを、町長はよく言っている。もう少しその辺のあり方検討委員会に出た意見をまとめて、周知をしてもう少し統合に向けた意見、ここに出て来てない意見、これじゃまだ見えてこないの、その辺かなと感じている。町長も意志としてはそういったところにいると思って間違えないと思うんです。その辺をあとどうするかという事だと思います。それを教育委員会でもうちよっとやってくれと言っていると思います。
- ということで、いままでの話の中ではだいたい意見がお分かりいただいたと思うんですが、統合でということであるんだけど、この場でやっていただきたいことは、客観的に、このパブリックコメントをこのまとめ方でいいのかということと、このまんま住民に出していいのか、(出すつもりなんだけど。)種類とか分野別などをどんなふうにまとめて

いいのかと思いますし、これからのあり方検討委員会の答申をどういう風な形で浸透していくか、という計画的なものをお話ししますので、これは個人的なもので申し訳ないですが、そんな方向でいいのかどうかご検討をいただきたい。2点、こんなまとめ方でいいのかどうか、これから進め方はこんな形でいいのかどうかということで、委員を含めてご意見をいただければと思うんですが、

まず、この局長に全部まとめてもらったこのまとめ方で、この分野別にAからHまで分野別に、先ほど副町長も町長が決断といったが、最終的には町長が決断を出すんですけども、教育問題については教育委員会がある程度の姿勢を出して、最終的に町長が出してもらうという形をとりたいと、私は思います。そうでないと委員会の意味がない。この答申をこういうパブリックコメントが出た。それをまとめたものをABCの分野ごとに、教育委員会を開きながら一つの方向性を出したいと思う。要するに「Aについては、教育委員会としてはこういう風に考えますよ。」と言うように臨時教委育委員会を開きながら方向性を考えて行きたい。いう風に思います。そして、できれば総合教育会議2回目、教育委員会を出した一つの方向性についてご意見を頂きながら、そしてある程度のところで町長に判断をしてもらう。そんな形で行きたいと思いますが、必ずそこには今分野ごとに資料をだしながら、教育委員会を出向いて地区ごとに懇談会・意見交換をする。そこには必ず反対意見やいろんな問題が出て、新しい意見も出てきます。そしたらまた新しい意見に対して、検討しなきゃいかんし考え方を説明しなきゃいけない。そういうものを2回か3回繰り返して、そして最終的に先ほど申し上げたように、総合教育会議で意見交換をして、町長に判断して方向を出してもらう。こんな方向で行きたいと思うんですけども、そこら辺のとこどう思うかご意見を頂きたい。

- それではまず、教育長の方からパブリックコメントの出し方をこういう形でいいかどうかというご意見ですが、こういう形と言うのはこの表を出すという意味ですか。たとえば今言うようにAAAと書いてあるがこんなにAはいらない、レイアウトの問題となるが、構成は別として、もう一つは出す時期なんですけれど、精査して教育委員会としてのコメントを入れて、教育委員会的な考え方「教育委員会としてはこうである」という出し方をするのか、その辺はまだですか。
- さっき総務課長が言ったように、AというのはA「話し合い・資料提供に関するコメント」と書いて、それに対して地区名がいるのかとか番号はいらないとか、そのところの出し方をご意見いただければと思います。
- 出すにあたって区分を出す必要があります。1回目出すんだったら貰った意見を縮小せずに、ピックアップせずに、そのまま出した方がいいような気がする。一語一句変えずに、変えてこういうふうにすると、出した人から逆にクレームがつくような気がする。
- そういったところは、教育委員会等でご意見を集約していただいて、今度の総合教育会議の方へ提出いただくということでいいのかどうか。
- 今意見をいただいているので、皆さんどうということ。
- わかりました。今ありのままのという意見
- 林さんと同じで、これを分類することで作為的だとかでまた言われちゃうこともあると思う。
- 一人の人が複数の内容を言っているのは、分配されているんですね。そういう事ではなくて、ある一人の人が言った意見は、そのまま一つの意見として出した方が私はいいよ

うな気がする。省かない。とりあえずは。

- Aさんが3つあれば、その3つはひとまとめにすること。
- 公開する事では、私はこの番号・地区・種類もいらないと思う。A・B・Cの別けて検討するのは、こちら側の検討のしやすさ、意見をまとめるときのまとめやすさに使えばいいのであって、町民に公開するんであったら、ありのままをいったん見せることが、賛成する方たちからも反対する方たちからも、一番クレームが付きづらい方法だと思うんです。
- パブリックコメントを大事にしなきゃいけないというのは分かるんですけど、最初にしたようにかなり、かなり最初に言った旗を振った人の風の強さというか、特に新野地区で言うと反対意見しか出ていないような印象があるんですけど、実際は新野の人の達の中にも「統合賛成だよ」と言っている人が、ここにパブリックコメントとしては提出はしてないんだけど、考え方としてそういう意見を持っている人は、大勢いるはずなんだけど、これを大事に扱ったことによって、新野の人たちは総意として反対なんだという印象になりかねないのかなと、「え、違うのに。」私はこの文章を読んで「そうじゃないよね。」「二中の人たちはみんな統合に反対している。」という言葉があるが、「そんな事思っていないよ。」という訳であって、主観的に述べられたことをものすごく、まあ主観的な意見しかないのが当たり前なんだけど。
- でもパブリックコメントである限りは、賛成派の意見が少なからうが多からうが、一遍は見せなきゃいけないと思うんですよ。パブリックコメントを求めた限りは、こちらからの務めなので。当然のことながらパブリックコメントには、正直に言うと富草も大下条もあまり興味がない。住民たちははっきり言って。困ってないから今。
- 前の一中の校長先生が、「申し訳ないけど、大下条や富草の人たちは、新野に目は向いてないよ。」と言われたときに、もうそれで終わりだなと思った。
- だからパブリックコメントが出てこないの。賛成も反対も。そんなの当たり前じゃないか統合するのは。と出て来るならそのくらい。経済的な問題、財政的な負担、そういったことを町で考えるんだったら早く統合すべきじゃないか、ぐらいいい意見が中心になるよきつと。
- この表で出したときの概要と言うのは、ある程度まとめであって生の言ったことではない。
- わかりやすくまとめてあるわけでしょ。私たちが見てわかりやすいように。
- ポイントを抽出してある訳でしょ。それは私たちが議論するときはいいいけれども、町民に見せるときは全部見せた方がいいよ。
- パブリックコメントという名前でもわかるかもしれないが、高校再編も同じこと。高校再編もパブリックコメントをとって、何千何万と出て来ている。ただそれに対してそのまんま出すかと言うと、出さないんだ。なぜかといういろんな理由があるが、大きくは個人評価、新野のこういう意見はあの人だとすぐわかっちゃう。そういうのを防ぐこと。
- わかってはいけないの。

- それは、本人が判断する事だから。やれという人もいるし、やめてくれという人もいる。もう一つは、局長に作ってもらった分野別と言うのは、県の高校再編もこういう形で分野別に分かれて公表している。そこら辺を参考にしてもらったのでこういうふうになる。そうすると我々教育委員会の中で話し合うのに、Aというものについてはどうですか。と言うふうになる。ただ一般の住民・町民の中にはそのままの状態から聞きたいよと言う人もいるかもしれない。それから出してもらいたくないよと言う人もいるかもしれない。要するに、教育委員会でやるにはこういうような意見で、これについてはこうですよと言うふうに、話し合いも8つになる。
- ただ概要の中で端折っちゃっているというのは、やはり生のあれを出した方がいいと思うな。ニュアンス的なものが違うとか。
- これだけ数があると、新野の大多数が反対というニュアンスを受けてしまいますよね。
- これパッと見ただけでも新野は反対なんだなとなる。
- 出した人は34人なんだよ。34人ならデータのにはべらぼうな量にはならないから、見せようと思えば見せられない訳では無いね。ただ今教育長が言われたように、私の言う事は大きぴらにしてくれるなと言う人がいるのかもしれない。
- パブリックコメントって公表しなくちゃいけない。(そんなことはない。)それで公表するといってなくて募集している訳だから、講評した時にその人が特定されちゃって、その人が町民からやられちゃったら、裁判になったりとか言う事もあるので、慎重に好評とかは考えてった方がいいのかなと思う。「頂いた意見を公表しますよ。」と最初から募集していれば、それはそれでいいと思うんですけど。
- それで言葉遣いが、誰だっというのが分かるし、それが長くなってくると、言いたい放題のことを言っているし。
- ほんとに申し訳ないけど、言いたい放題いっているのがあったりしている。
- それで文章の中に、自分の生活上のものを取り入れて書いたりすると、それがそのまま出るとその人だと絶対わかつちゃうので。
- だから理由付けとしては、いくらでも理由付けができるので、全部をまとめるのではなくある程度まとめた方がいいのかなと思う。
- 新野の反対がものすごく強いというのをこれだと受けるので、新野と言うのは出さない。端折ってもいいから1人の意見は同じ所へ書いて、34の意見の区分で出すというのはダメ。ここまで細分化しないように、公表するときには。私たちが検討するときには、こういう項目別に分けてもいいんだけど。
この引用でいいから、1人の人が3ヶ所くらい分散されているやつは、縮小型でいいから1つにまとめる。
- それか両方だな。34人まとめてわかりやすいやつは、個人的な内容になるやつは端折ってもらって、34人のやつをまとめて出すのと、こういうふうに分けて出すのと両方出す。それで教育委員会として、この分野について検討しましたとことでさっきのやつは。最初はね、賛成・反対で分けていた。それはあまりよくないかなということで、数を見ても賛成・反対が分かった。賛成の意見なんてわずかしかなないもんで。さっきの言うよう

に大下条や富草は、統合するのが当たり前だということで、そんなことは決まっているんじゃないというようなこと。ただ表に出てこない。

- 県は、パブリックコメントを出すと、長野県教育委員会はこれに対しての回答をくれるのか。
- 細かくは言わないけど、パブリックコメントの説明会が地区ごとにあるが、まとめたなかで口頭で言う。文書では出さない。
- これは県のやり方と言うか、県のを参考にしたという意見と、どこまでありのままで出すかという話で、その2つのやり方で
- 私はありのままでなくてもいいです。個人の名前が特定される内容があるのだったら、それは問題だろうから、これももう1回34人の意見にまとめ直して、34項目に分ければいいのかと思います。その点は教育長が言われたように、34人の人の中で3つ意見がある人を分ければこういうふうになりますよというふうに併記するか。
私は本当は、さっき係長の言う公表することがいい事かに入って考えてみると、うーんと考えちゃうことも無きにしも非ずだよな、確かに。
- 主観的にというところから考えてみると、そういう意見を言われてそうだよねと言うと同調しちゃう。
- だけどこれから地域にはいつ、説明会とか懇談会を開くときには、パブリックコメントの公開は必ず求められる。間違いない。パブリックコメントをやったんだから。それは「誰でも見れる形で公開しなさい。」と必ず言われる。口頭では多分納得してもらえないと思う。ホームページか文書か何かで出さざるを得なくなると思う。
- いずれにしても公開されても、出せるような状態にはしとかなければいけないと考えるならば、やはり作っておいた方がいいので、俺的にはまねではないが、県で出した方向的なものでやって行った方が無難かなという気がします。
- 途中で考えたんだけど、もし生の声が聞きたいと言ったら、「やぶさかではありませんよ。公開しますよ。教育委員会へ来てください。」とね。
- これ隠すことじゃないもんで、公開しても問題ないと思うんだけど。
- まあ、反対意見がほとんどだから、町が統合推進の方へ誘導しておるというのはないんだけど。
- 教育委員会の考え方を言えば、誘導しておるということになる。
- 私としては町と、いわゆる行政とは独立した組織なので、私からこちら3人は、なのでそこからの意見として具申はいいと思うんです。統合に賛成ですという教育委員会の意見として出しても。
- 教育委員会の意見としては、一つ一つに答えるわけですか。全体的にですか。
- 全体的に。

- 全体的に答えるんなら、こんなような意見が出ましたというのをもっと大きくしちゃって、「こんなように出ました。」とやったっていいんじゃないですか。むしろ全体出すのがむづかしい、要約すると、僕も仕事とかで業界新聞を書いて上にあげても、上の人が直すと全然意図が違う文書になっちゃったり、それは岡田さんが読んだ時に感じたやり方でやっていて違うと言われちゃうと、だったらもっと大きい感じに全部が含むというの難しいかもしれませんが、「俺の言った意見はこの中だな、それに対してこう答えとる。」という意見が出たかは教育委員会に来れば見せますよというのでいいんじゃないか。一個一個答えるんだったら載せてもいいかもしれないけど、全体的に答えるんなら。
- 子どもたちにとって学びのためにはという意見が、一個もないのはどうかと思う。先ほど言ったように、もうちょっと考えて意見を述べてくれればいいのにとと思う。これを見ていると悲しくなっちゃう。
- これ、答申が出た時にも、議員の中からある一定の方向へ進めるための選任をしているという意見があり、PTAがあるからと言っても、その方向へ進めているのかという。
- それは偏見です。
- そういうことを言われちゃうと、一生懸命あり方検討会の衆でやっていただいたにも関わらず、結論ありきの方向で進めているのではないかと言われていると、ほんと悲しいことだ。
- ホントに緊張した9回だったので、それは全員が同じだと思う。ホントに皆さん緊張して真面目に真剣に考えました。
- 34人のこれで行くのか、大倉委員の言うようにもっと要約するのか。34人ある程度生の声で出して、Aは要約して出して9つしては。俺としてはこれが分かりやすいと思うんだが、この分野別に分かれてこういうようなコメントが出ました。自分の書いたやつを見れば要約したあるなと分かるな。だけどあんまり要約してないよ。わかりやすくまとめであると思うんだけど。
- こういう感じで行って、もう少し内容を見て、まずいと思うところだけ直して、こんな感じで行けばいいんじゃないの。反対意見ばかり大勢で、こういう意見ばかりじゃないというのは、それは読む人の考え方次第で、こっちが心配することじゃないかなと思う。
- タイトルに項目をやって、種類とか地区別を全部外して、こういう項目で並べたらどうでしょう。
- 似たような意見を一つにまとめちゃうことはできないんですか。
- それはできません。人はまとめてはない。
- 山ほど文章があったときに、ななめ読みをする人がいると思う。ななめ読みをする人がいるという前提で言ったら、3人の意見は似ているというのをまとめちゃったら、最後まで読まずに、反対意見が多いねと片付けられちゃったら悲しいかなと思う。
- 反対意見がこういう出し方をすると、反対意見の比率が非常に高く見える。でもそうではなくて、人でやってみると、現実一人の人がどういうことを言ったかやると、比率的には違ってくるので、これだと反対意見の数がべらぼうに多いというように見える。特

に新野の人は全面的に反対と見えないこともない。

- そう見えます。これだけ多いと。
- これ各地区から何件意見出てきたというのは公表しちゃダメなのか。
- そんなことはない。
- 公表するということで問題なければ、じゃあ逆に言うと、各地区から何人のパブリックコメントが出てきたかということを書いて、尚且つ34人の意見にまとめ直して、要約した内容でいいから列挙するというのが、いろんなところで判断する時には、読んだ人の方の捉え方も、ここから受ける印象の緩和ができるんじゃないか。
- もう一回パブリックコメントをとって、こっちが確認したやつをみんなに頼んで書いてもらったら、全然結果が違うということもあり得る話なので。
- これは全くそういう手心を加えてない意見の状態なので、出方なので。
- 今言うように、人数的に34人が集計すると74件の意見を述べたということで、尚且つ今林さんの言うようとおりの、地区別で言う例えばの話で、34人のうち30人が新野人で、残りの人が違うところだったというところを明確にしてもらって置いて、件数は反対意見の方が多いように見えるんだけど、俺はあくまで県のようなやり方の方が無難ではないかと思う。そのくらいの方がまとめやすいんじゃない。
- このくらいで要約しておいて、「個人を特定できるものは非公開とします。」というようなコメントをつけておけば、それが要約した理由にもなるかなと思う。
- そういう形でいかがでしょうか。それでとりあえずやってもらって置いて、ちょっと思ったよりイメージが違うなとなったら、またそこで考えてもらって、林さんの言うような形でも、大倉さんの言うような形でもかえてもらっていくしかないんじゃないか。まあ手探りの状態の中で、進めて行ってもらう方がいいのではないかと思います、いかがでしょうか。
- それで教育委員会で検討する時には、こんな形でと話し合った時にはまた変わるかもしれない。また相談をいただければ、参考になるか意見を述べることはできます。
- では、パブリックコメントの方はそれでよろしいですか。それではもう一点、あり方検討委員会はこれからどうするというのは。
- 次の総合教育会議までに、教育委員会の考えをまとめて具申するということ。
- このスケジュール的なものを、今後こうしていきます的なものを言った方がいいんじゃないか。
- 今年度末に方向付けをする予定なんですよ。答申が出た限りは。
- 一応そういう考え方だ。副町長もこの間言っていたんだが、早くやらないと住民もイライラしていると言っていたが、それが狙いだ。落ち着いたところで出していくのが手法の一つで、これで今言った方向で、教育委員会で分野ごとに検討して行って、考え方を言っ

て考え方を作って、それを検討してもらって、町長に判断してもらおうということ。尚且つたぶんそこでは収まらないものも出てくる。出てきた意見をさらに研究する。それを2回か3回繰り返さないとだめだなあとと思っている。特に新野は。決着つかんかったら、ある程度決断しなけりゃいけないと思っている。いずれにしても本年度中に、「それじゃ3年度くらいまでには結論を出すように考えてください。」とかさ。

だって12年前の結論はそうだった。10年後に複式になるときには統合してください。という様なこと結論だった。

- 10年前から40人減っているんです。それで10年前から4分の1になっている。この極端な急降下はわかっていた。
- そういうときに必ず出てくる意見というのが、「町として人口減少に歯止めをかけられる手立てはどんなことをしてきたんですか。」ということが必ず出てくるんですよ。
- 新野でも山村留学を天龍でもやっとして、新野でもとその当時から話題になっていて、確か話が出ておったと思うんだけど、「地域で考えておきます。」と言っておったんだけど、結局何も考えられなくて今に来ている。
- でも今言っているのを使うにしろ何にしろ、はっきり言って学校が復活するほどの方は来ないですよ。何にもないんだもの。ディズニーランドがあったって、ディズニーランドに来る人はそこに住む人じゃないから。基本的にここに居住してもらわなきゃいけない話なので。
- 彼らの言っていた人口増加に対する対策を、ちょっと考えてもらわないと、報告の時に出たら、「町としてはこう考えています。」と言えるから。
- 和合が、小掠さんがずっとやってきて、1年生から6年生までが全部おるという39年ぶりの出来事と言っておるが、そうして取り組んで居る。
- その努力を無にする話になっちゃうかもしれないが、それでも横ばいでしかない。尚且つ5人とか6人とかいう世界なんです。だから規模にする話が非常に狭い話。確かに児童の減少率だと、新野が一番率で言う和高い。次が大下条で、次が富草。次が和合。和合はほぼ横ばいなんです。ここ20年・30年ぐらいほぼ同じくらいなんです。ずーと底辺。7人から5人くらい。それは努力があったからそれができたんだけど、ただそれは学校を、本来の学校を維持するくらいの話から言うと、レベルが違う話だと思うし。
- でも、町が変わっていますよね。30年前は、車の免許を持っている母ちゃんたちがなくて、35年前に小学生を飯田に連れて行った時に、2・3年生の社会見学に連れて行った時に、初めて飯田へ来たという子が何人もいたんですよ。その時代から考えて、今は飯田へ通える時代。もう町自体の生き方というか、車社会になっちゃった時代背景を考えれば、もう自分たちも変わっていかなくちゃいけない話だし、自分なんか長野市の出身の小学校が無くなりましたから、ホントに長野市のど真ん中の学校ですが、100人の小学生がいた小学校でさえ無くなってしまう時代なので、新野の人達を含めてそれに真正面向かわなきゃいけない時代なんだと思います。他見てみればみんな減っているんだから。
- 意識改革が難しいんだよな。
- 司会 勝又総務課長
それでは(1)はよろしいですか。続いて(2)その他ということで何かございますか。

○岡田事務局長
事務局からは特にございません。

○南嶋教育長
ありません。

○司会 勝又総務課長
よろしいでしょうか。 (ありません。)

4 閉会

○ 司会 勝又総務課長
それでは、活発なご意見等いただきまして、第1回の総合教育会議を終了したいと思います。
それは以上を持ちまして終了します。ご苦労さまでした。

<15 時 01 分>